第６章　新市まちづくりの基本

１　基本理念

時代の潮流や４町が抱える課題、現在の総合計画の方向性などを総合し、新市の基本理念は次のように設定します。

●共生

４町は、天城山など緑深き山々といで湯、そして駿河湾の海の恵みも受け、豊かで美しい地域を形成してきました。また、美しい自然や温暖な気候の中、豊かで思いやりある温かい人の心が育まれ、古くから文人墨客も数多く訪れる自然・歴史・文化にあふれる地域です。新市においてもこうした地域の資源を活かした循環型社会を形成し、自然と人が共生したまちづくりによってまちの魅力を高めていきます。

●個性と創造力

社会経済の右肩上がりの時期は過ぎ、地方分権や高齢化、少子化の波が非常な速度で押し寄せています。しかし、これらを負の要素と考えるばかりでなく、これを地域全体の創意や工夫で克服していきたいと考えます。また、不安定な社会・経済状況の元では、人々の心に「ゆとり」や「癒し」が一層求められており、この地域にはそのような癒しの心と空間が存在しています。新市のまちづくりにおいては、そうした地域の個性を高め、挑戦する人の存在が重要となってきます。様々な人との出会いや交流、森づくりなどの体験、学びなどから創造力あふれる人づくりをすすめます。

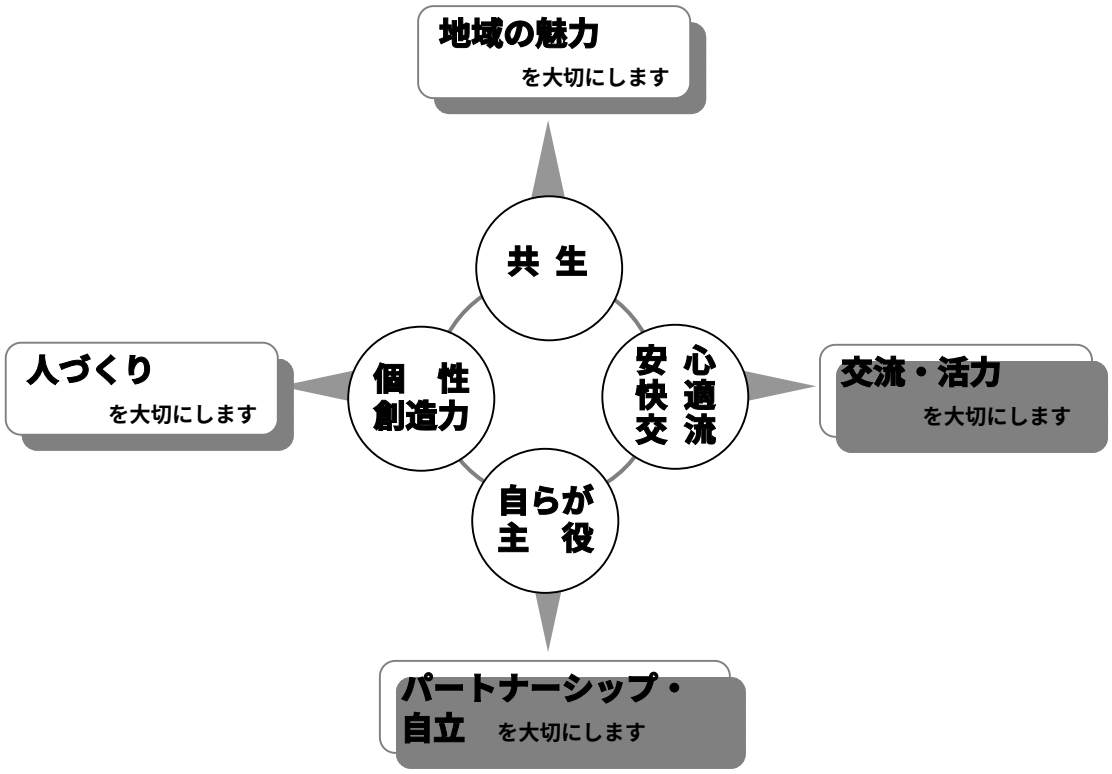
●安心と快適・交流

新市のまちづくりでは災害に強い安全なまちや高齢者など誰でも暮らしやすい快適な環境、保健・医療・福祉が充実し、人々の支えあいによってつながれた安心を感じられる社会の構築を目指します。また、より広域的な視点の中で、道路や鉄道、海上交通など総合的な交通体系によって、近隣地域とのネットワークを充実するとともに、静岡空港や清水港など海外も視野に入れた内外の人々との交流によって伊豆地域の中心的な交流都市を形成していきます。

●自らが主役

厳しい経済情勢の下では、地域の将来像はその地域の創意と工夫で実現されます。「地域自らが主役」となって必要なことを見つけ、決定し実行することが重要となってきます。また、住民は責任感と行動力を高め、自立した住民となり、行政は情報の共有と効率的な行政経営システムや住民・企業・ＮＰＯなど各主体との協働によって 20 年後も豊かさの感じられる都市であるために、財政的にも自立したまちづくりを進めます。

基本理念とその具体化例



2　新市将来像

基本理念を踏まえ、新市の将来像は次のように設定します。

新市将来像

人あったか、まちいきいき、自然つやつや　伊豆市

～世代を超えて支えあい、創造を湧き起こすまち～

人あったか　＝人の心の暖かさは、ふれあい、思いやりであり福祉の基本となるものです。

まちいきいき＝自立・自活、健康で安全なまちづくりから交流が生まれ、いきいきとした新市を創造します。

自然つやつや＝「輝く」や「きらめく」などの平凡な表現ではなく、光沢があり照り映える自然であり、恵まれた自然環境を持つ新市のイメージを表します。

４町は、豊かな自然に恵まれています。自然と共生することで豊かな恵みを得てきました。これからも豊かな自然と共生し、環境負荷の少ない循環型社会を築き、未来の子供たちにつないでいきます。

豊かな自然や温泉は、この地域を訪れる人にとってなによりの贈り物であり、癒され、元気になっていきます。同時にみんなが力を合わせ、支えあい、笑顔あふれる元気な新市の姿は訪れる人にとっても元気の素になるはずです。

合併による一体化を新しいものを創り出す地域の力として、これらの資源を生かし、交流の促進を図り、住む人にも訪れる人にも魅力ある新市を目指します。

3　まちづくりの基本方針

新市の将来像を実現するため、新市で取り組むべきこと（施策）の方向性を以下に示します。

（1）創造力ある人づくり

４町の宝は、あたたかな人の心であり、地域づくりの基本は人づくりです。このことから、それぞれの人が人や地域の個性を大切にしつつ、創造力を最大限に発揮し活き活きと輝けるまちをつくります。そのためには、学校教育をはじめとした生涯学習を充実し、地域の自然･歴史･文化に根ざした活動によって豊かな心を育み、新たな文化・芸術や地域の産業を創り出すことのできる人づくりを進めます。

（2）誰もがいきいき暮らせるまちづくり

少子高齢社会を迎える中、子供から大人まで誰もが健康で心豊かに、安心して暮していくことが何より求められています。そのためには保健・医療・福祉・教育の連携の中で、自分の健康は自分で守っていける健康づくりへの取り組みや地域の中での助け合いの仕組みをつくり、誰もがいきいきと安心して暮らしていけるまちをつくります。また、次代を担う子どもたちを地域全体で育んでいける体制づくり、子育て支援を進めていきます。

（3）住むにも訪れるにも心地よい環境のまちづくり

緑あふれる森や清らかな水や海、素晴らしい景観など豊かな自然と日本の歴史の中に深く根ざした様々な地域資源と穏やかな風土は、そこに住む人々に心地よさをもたらすものです。また、豊かな水は農産物や飲料水となって地域を潤し、海洋に流れ込んで水産資源を育てます。こうした循環型のまちは住む人に心地よく、人を引き付ける魅力にあふれ、まちを訪れる人も心地よく感じることが出来ます。このため、貴重な自然環境や歴史資源を保全・活用するとともに、清潔で快適な居住環境を創り出すことによって、環境と共生した住んで心地よいまち、訪れて心地よいまちをつくります。

（４）地域の活力をいかしたまちづくり

４町では恵まれた自然環境や温泉・歴史などの資源を今以上に活用していくことが求められています。そのためには従来型の農林水産業や観光交流産業の基盤強化に加え、グリーン・ツーリズムなど農林水産業と観光業が連携した取り組みや４町に存在する運動・医療・福祉・健康増進などの様々な施設・資源を活用した産業の創出、商業の振興による中心市街地の活性化などが求められています。また、伊豆地域の東西、南北の交流拠点としての基盤を整備し、先端的な技術や知的資源の集約によって新たな分野の産業を生み出し、地域の雇用に結び付けることによって多くの人々が交流する活力と魅力あるまちをつくります。

（５）活力の源となる安全で都市機能の充実したまちづくり

４町では台風や水害など度重なる災害によって大きな被害を受けてきました。今後も東海地震による被害などが懸念されることから、住む人、訪れる人が安全で安心して過ごせる災害に強いまちづくりが求められています。また、伊豆半島の交通の要衝地として東西、南北間の交流を盛んにし、交流人口の拡大を図るとともに、住む人にとっても快適な居住環境を実現するための道路や公共交通、高度情報通信基盤、商業などの産業基盤の整備・充実を図り、交流と連携の拠点となる安全で都市機能の充実したまちをつくります。

（６）地域が主体のまちづくり

よりよい地域を創っていくためには、そこに暮らす人が地域のことについて自ら考え、行動していくことが大切です。そのためには、そこに住む人だけでなく地域に存在する様々な企業や団体・ＮＰＯなどが連携・協働してまちづくりを進めることが必要です。このため、行政は情報の積極的な公開に努め、効率的で効果的な行財政運営に取り組み、誰もが気軽に参加できる仕組みの構築が必要です。また住民は一人ひとりが主体的にまちづくりに参加し、コミュニティ活動を中心とした地域が主体のまちをつくります。

4　地域別整備の方針

（1）土地利用の方向性

新市は市域の８割以上を森林が占め、可住地面積も少ないことから新市の魅力あるまちづくりを推進するため、以下の３つの視点に立ち、長期的展望のもとに総合的かつ計画的な土地利用を図っていきます。

ア 新都市核の形成

新市の核となる地域については公共施設等の基盤整備を積極的に進め、賑わいのある魅力的な市街地を形成し、新市にふさわしい都市空間の整備を図ります。

さらには内外の人々が集い交流する拠点としての整備を進め、観光交流拠点等と連携したまちづくりを展開します。

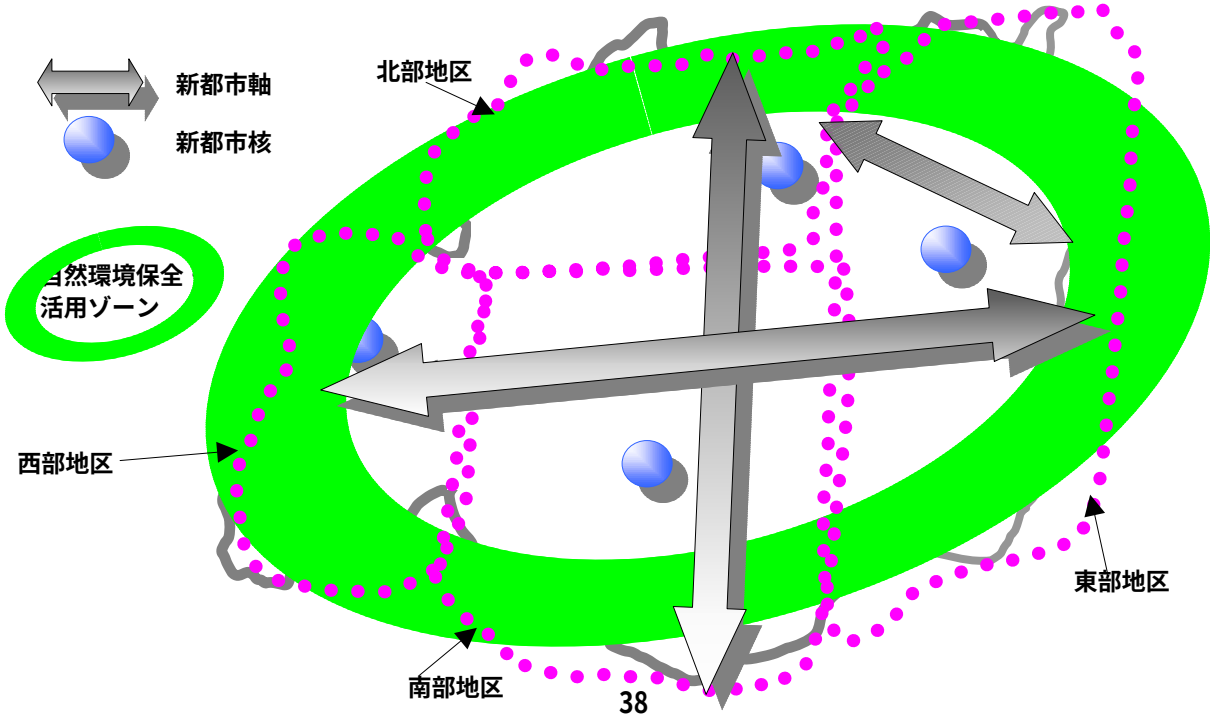
また、公共下水道事業や土地区画整理事業などの基盤整備を推進し、良好な居住空間の確保を図るとともに優良な住宅地等の整備を行います。

イ 新都市軸の形成

新市をネットワークする東西・南北の交通軸を整備し、都市構造にあった道路網を整備します。そのためには、伊豆縦貫自動車道や国道 136 号の整備を促進するとともに、新市を東西に横断する広域幹線道路の整備促進を図ります。また、新市内の地域を結ぶ幹線道路、生活道路の整備を推進します。

ウ 自然環境保全・活用ゾーンの形成

４町の地域全体を自然環境保全・活用ゾーンと設定し、森林、農地、河川、海岸などの多彩な自然や温泉などの恵まれた資源を保全しながら、農林水産業の振興を図ると共に、豊かな自然・歴史・文化に触れるスポーツ・レクリエーションの体験空間、健康づくりや癒しの空間としての整備を図ります。



（２）地区ごとの振興方策

【北部地区】

北部地区は、修善寺駅を中心とした市街地を形成しており、新市の陸の玄関口として、交流や賑わいの拠点となるような場の整備を進めます。

また、この地区は新市の商業の中心であることから、既存商店街の活性化を図り、商店や事業所の集積を図ることによって魅力ある中心市街地を形成します。

【東部地区】

東部地区は、既存の集落と農地、森林からなり、特産品の開発や物販施設の整備など農業を中心とした産業の基盤整備と居住地としての生活基盤の整備を図っていきます。

また、農業と観光の融合したグリーン・ツーリズムの拠点や自然資源を活かした学習・レクリエーションの場、健康・福祉・医療を複合させたウェルネス産業の創造の場として整備を進めていきます。

【南部地区】

歴史・文化と緑の共存する空間として、積極的な景観の保存と創造及び体験型プログラム等の提供を図ることにより、滞在・体験型の観光需要を創出します。

また、農産物などの特産品の供給拡大に努めながら温泉や健康・運動を連携させることで温泉保養空間を創出するとともに天城北道路のインターチェンジなどの整備を通じ、森の中の交流拠点としての整備を進めます。

【西部地区】

西部地区においては、地場産業である水産業の基盤を整備し、海岸線の眺望景観や癒し効果を生かした観光・保養、マリンスポーツなどの海洋レジャーの拠点としての整備を進めます。

また、カーフェリーなどによる清水・静岡、沼津方面等へのアクセスの向上を図るため港湾施設を整備するとともに、海上交通網の整備充実に努め、静岡空港とアクセスすることによって国内外への海の玄関口として交流機能の拡大を図ります。

5　分野別基本目標

新市の将来像実現を目指し、まちづくりの基本方針の各分野において具体的に取り組むべき方向性について次のように整理します。

（1）創造力ある人づくり

新市の将来は、これからの人づくりにかかっています。年齢や男女の区別、障害の有無に関係なく、それぞれの場所で自ら一生懸命に考え、行動し、地域を担っていける人が求められています。そんな創造力ある人が、自らの地域の将来について責任をもってまちづくりに取り組むことが大切です。

そのためには、

地域でのふれあいを大切にしながら、誰もが生涯にわたって学ぶ機会を得ることができるような生涯学習のまちをつくります。

学校だけでなく、家庭や地域が一体となって、自ら学び行動する心、思いやりのある心を持った子どもを育む教育環境の充実を図ります。

地域の歴史や伝統的な祭りや行事、文化財などの保存と継承に努めるとともに、新市にふさわしい新たな文化の創造に取り組みます。

スポーツ・レクリエーション活動を通じ、誰もが生きがいを実感できる環境づくりに努めます。

地域内外の人々との交流を通じて郷土愛を深めるとともに、国際交流の機会を確保して国際理解教育を進めるとともに、世界に通じる人を育てます。

（2）誰もがいきいき暮らせるまちづくり

誰もがいきいき暮らせるまちをつくるためには、住民一人ひとりが健康づくりに積極的に取り組み、保健・医療・福祉が連携した支援体制の中で地域の人と共に支えあいながら暮らしていける環境をつくることが大切です。

そのためには、

誰もが自主的な健康づくりに取り組めるよう保健・医療の連携を推進するとともに相談体制を充実します。また、地域資源である森林や温泉などを活用した健康づくりへの取り組みを進めます。

福祉事務所を設置し、福祉・保健・医療の連携した総合的な福祉施策を展開すると共に、地域のコミュニティや福祉団体、ＮＰＯなどと連携しながら共に支えあう地域福祉の仕組みをつくります。

高齢者や障害者が住みなれた家庭や地域で自立した生活をおくることができるよう、健康づくりや生きがいづくりを中心とした福祉サービスの充実に努めます。

幼稚園との整合を図りながら、保育施設の適正な配置を図るとともに、保育時間の延長など保育内容の充実を図ります。また地域において安心して子どもを生み、育てることができるよう各種啓発活動や相談機能の充実に努め、地域や家庭における子育てを支援します。

（3）住むにも訪れるにも心地よい環境のまちづくり

住むにも訪れるにも心地よい環境のまちをつくるためには、自然環境の保全と活用を進め、資源循環型社会の構築を目指して一人ひとりが環境に負荷の少ない暮らしを心がけるとともに、すべての人々が安全で快適な生活を送れるようユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めます。

そのためには、

天城山系や駿河湾などの自然がもつ多面的な機能を維持するため保護・育成に努めるとともにレクリエーションや学習の場面において地球環境の大切さを学ぶ機会の提供に努めます。

ごみの減量化やリサイクルの活動の推進を図り、恵まれた環境を次代につなげられるよう持続可能な資源循環型の地域社会を構築します。

豊かな水を確保し、安定供給に努めるとともに、狩野川などの河川の水質浄化を図るために公共下水道、農業集落排水の整備を進めます。

災害の発生に対して速やかに対応できるよう消防・防災機能の強化に努めるとともに、医療と連携した救急体制の充実を図ります。また、歩道など交通安全施設の整備を推進し安全・安心の暮らしができるまちづくりをすすめます。

地域の中で子供たちが安心して遊び、地域のひとが憩いの場として利用することのできる公園やコミュニティ広場の整備などふれあいやゆとりの感じ取れる環境整備をすすめます。

（４）地域の活力をいかしたまちづくり

地域の活力を高めるためには、新たな地域戦略と複合化した新たな産業を創出し、その質を高めながら内外に向けてアピールし、まちの魅力を高めていくことが大切です。

そのためには、

観光地としてのブランドイメージを保ちながら、新市に点在する観光資源の連携強化を進めるとともに、グリーン・ツーリズムや健康・癒し等をテーマとした新たな観光地づくりを進めます。また、地域の安全な農産物や新鮮な海産物を提供し地域の特色を生かした魅力の向上を図ります。

農林水産業においては、生産・流通基盤の強化を図り、地域資源を活かした特産品の開発・ブランド化を進めます。さらに、新たな流通・販売戦略を構築するとともに、観光と連携した中で娯楽を取り入れた交流産業を創出します。

バランスある産業構造のまちをつくるため、伊豆地域の東西、南北の交流拠点としての基盤を整備し、既存商店街の活性化を図ることでまちに賑わいを創出します。さらに、製造業においては異業種交流を促進し、先端的な技術や知的資源の集約によって新たな分野を生み出し、地域における雇用の確保、人材の育成に努めます。

天城山系や駿河湾などの恵まれた地域資源を活かし、運動・健康・医療の分野など、様々な施設・資源を活用した新市ならではの新産業の育成に取り組みます。

（５）活力の源となる安全で都市機能の充実したまちづくり

多くの人が集い、賑わいと活力あふれるまちをつくるためには、自然環境との調和を図りながら、暮らしを支え、交流と連携の拠点として都市基盤の整備を進めていくことが大切です。

そのためには、

伊豆縦貫自動車道や伊豆横断道路の整備促進をはじめとした伊豆の東西、南北を結ぶ広域幹線道路や地域内の拠点を結ぶ連絡道路など幹線道路の整備を推進します。また、身近な生活道路などの整備を通じて地域交通の円滑化を図るとともに鉄道・バス・船舶の利便性を向上させることによって新市の総合交通体系を確立します。

地震・津波・風水害などの自然災害に強いまちをつくるため、急傾斜地対策や河川整備、海岸保全などの防災基盤の整備を行います。

自然環境など地域の特性を活かした土地利用を図り、良好な住宅の供給や公園、歩道など新市にふさわしい市街地の整備を推進するとともに、美しい都市景観の形成に向けて緑化・美化に取り組みます。

インターネットをはじめとする情報通信技術の発展に対応し、高度情報基盤を整備して地域情報化に対応した環境の整備を推進します。

（６）地域が主体のまちづくり

新市を発展させるためには、日常生活を支える身近なコミュニティ活動や各種のボランティアやまちづくり、地域づくり等への多様な社会参加を通じた市民の主体的な活動が大切です。

そのためには、

市民一人ひとりがまちづくりへの意識を高め、世代を超えて交流し、自立的な地域を創るため、地域内のコミュニティ活動を積極的に推進します。

新市の地域間の交流・連携や広域的な交流、都市間連携などに対応できるハード、ソフトの体制整備を図ります。

市民一人ひとりが市政に関心をもち、市民としての責任が果たせるよう市民参加、協働のまちづくりの仕組みを構築します。

福祉や環境、子育て、教育などのＮＰＯや団体、ボランティアが活動しやすい仕組みを整備します。

男女があらゆる場面において対等なパートナーとしてその個性と能力を発揮し、ともに責任を分かち合う社会を実現します。

（７）効率的、効果的な行財政運営

地方分権社会の中で独自性ある地域経営を進め、４町合併の効果を最大限に発揮するため、行政は今以上に効率的、効果的な行財政運営に取り組む必要があります。

そのためには、

市民への情報公開、情報提供を積極的に進め、誰もがまちづくりに参加できる開かれた行政を実現します。

近隣の市町村、県、国等との連携を強化し、相互の役割分担と責任において、さらなる広域的なまちづくりを進めます。

行政評価注やＰＦＩ注など新たな行政手法を積極的に取り入れ、住民ニーズに基づく効率的で効果的な行政運営を実現します。

注：行政評価：行政の活動を対象とした評価活動。事後の各種評価のみならず、費用対効果の分析など事前の評価活動も含まれる。

注　ＰＦＩ：Private Finance Initiative の略。民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して、効率的、効果的に公共施設等を整備・運営する手法

６　地域戦略計画例

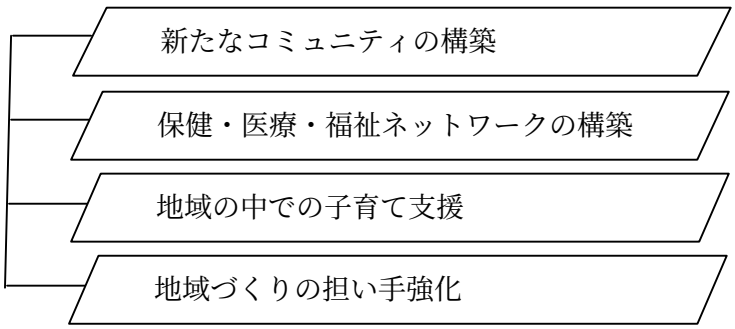
地域戦略計画例は、将来都市像の実現に向け、４町の今ある資源を最大限に活かしつつ合併を契機として、新市が飛躍するために必要な戦略的な取り組みについて例示的に示したものです。

（１）支えあいによる安心地域づくり

少子高齢化が進行する中、誰もが安心して暮らせるまちを実現するには保健医療福祉の充実や安心して子どもを産み育てられる環境づくりなど市民生活に関わる基礎的な分野の充実が不可欠です。

４町においては、高齢化率が静岡県平均を上回る割合となっており、今後も高齢者の増加はもとより、高齢の単身世帯や夫婦のみ世帯の増加が予想されています。また少子化や若年層の域外への流出などによって若年人口が減少し、社会全体の活力の低下が懸念されます。誰もが輝き、いきいきと暮らしているまちを創るためには、地域住民が自らの地域を知り、自ら考え、相互に助け合い、支えあっていくことにより地域全体の福祉を向上していくことが求められます。さらに次代を担う子どもたちが地域に誇りが持てるよう地域全体で子供たちを育んでいける社会を創ることが重要です。そのためには地域の核となる人材を掘り起こし、育成していくことによって新たな地域コミュニティを形成し、地域の中で支えあえる仕組みを作っていくことが重要です。

また、保健・医療・福祉の各機関をネットワーク化し、地域のコミュニティと連携させることによって総合的な福祉サービスの供給体制を確立していきます。また誰もがサービスの受け手から担い手に展開できるよう各種講座の開催や人材登録制度などを通じて新たなサービスの担い手を確保していきます。また地域ぐるみで子育てする仕組みや子育て支援のためのサービスの充実を図っていきます。これらすべての支えとなる地域コミュニティや団体・ＮＰＯ・ボランティア等の活動基盤を強化し、共生する地域を創ります。

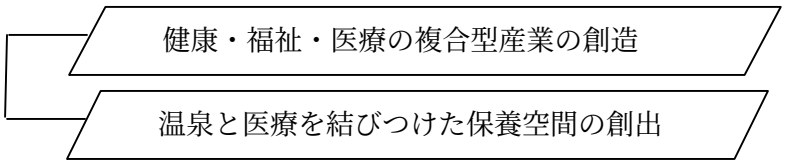


（2）ウエルネス・ファルマの複合産業づくり

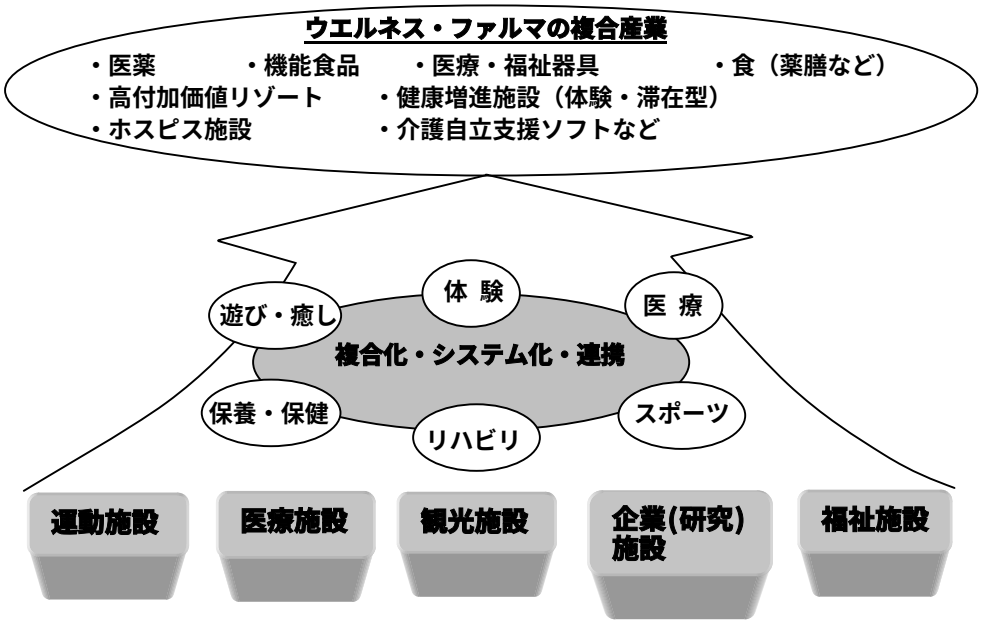
４町は、人口に比べて数多くの医療施設や老人ホーム、福祉施設が存在し医療・福祉分野においては近隣地域と比べても比較的優位にあると言えます。特に伊豆のステイタスや暖かいイメージもあり、高齢者等を中心とした圏域外からの投資や需要は継続すると考えられます。さらに、４町には豊富な温泉を活用した特色ある複数のリハビリ系医療施設なども存在しています。また広域的には、県立がんセンターや国立遺伝学研究所もあり、福祉・医療や健康産業にとっての有効な資源が存在しています。これらの資源を活かし、その知的集約を「癒し」や「健康・運動」に関連させて当該地域に呼び込むことで新たな複合型の産業の創生を図ることが重要と考えられます。

産業イメージとしては、地域固有の施設・資源の特色を活かし、今後、温泉や運動と連動した滞在型ケアやそのソフト技術の開発、福祉器具開発や温泉成分を利用した機能性食品開発研究など、地域の資源を最大限に発揮した産業研究や小企業集積を図り、新たな産業の創出を促進します。

また県東部地域を中心に研究開発の促進と健康関連産業の振興・集積を目指す「富士山麓先端健康産業集積構想（ファルマバレー構想）」が推進されており、今後は県立がんセンターのターミナルケア（ホスピス機能）の一部を本地域又は温泉ゾーンに確保・誘致することで、最先端の医療と癒しの保養空間（家族の付き添い者なども快適な環境で末期を見守れる。）をマッチさせることができます。



【複合産業のイメージ】



（３）時代に対応した交流の推進

この地域は、海や富士山を中心とした自然、固有の歴史、農業・漁業などの体験を通じたグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、更に緑と温泉と保養の癒しといった魅力を有し、それぞれ個性のある多様な観光交流地域を形成しています。しかし、交通機関の発達や個を重視する価値観などから従来の大都市に近接した観光需要や比較的短距離のバス旅行などでの需要確保が困難となっており、地域を超えて広く需要を求めることが必要となって来ています。

多様な魅力をより高めていくためには、それぞれの地域においてさらに個性と創造力を発揮すると共に、地域内で連携し、時代に対応した交流産業を築いていく必要があります。さらに、地域内のネットワーク化と魅力ある資源の有効な活用、情報発信など、地域に人を呼び込み、交流人口を増加させるための施策を推進していきます。

また、この地域にとっては、交流人口の増加が地域の活性化に直結することから、首都圏や静岡空港からの交通アクセスを充実するとともに、伊豆地域全体を一つの圏域としてとらえ、伊豆縦貫自動車道を基本とした南北軸、伊豆横断道路を基本とした東西軸を基本軸とし、国道 136 号線や主要地方道伊東・修善寺線など地域間連絡道路や鉄道・バスなど地域内交通基盤を整備し、伊豆地域の十字路としての中心交流拠点となるよう交流基盤を整備していきます。

